

別添1 リサイクル計画書（概略設計・予備設計・基本設計） 様式 - 1

1. 工事概要

発注機関名	
工事名	
工事場所	
工事概要等	
工期（予定）	

2. 建設資材利用計画

建設資材	利用量	現場内利用 可能量	再生材利用 可能量	新材利用 可能量	再生資源利用率 ( + ) / × 100	備考
土 砂	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	%	
砕 石	トン	トン	トン	トン	%	
アスファルト混合物	トン	トン	トン	トン	%	
	トン	トン	トン	トン	%	

最下段には、その他の再生資材を使用する場合に記入する。

3. 建設副産物搬出計画

建設副産物の種類	発生量	現場内利用 可能量	他工事への 搬出可能量	再資源化施設 への搬出可能量	最終処分量	現場内利用率 ( / × 100)	備考
建設発生土	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>		地山m <sup>3</sup>	%	
コンクリート塊	トン	トン	トン	トン		%	
アスファルト・コンクリート塊	トン	トン	トン	トン		%	
建設汚泥	トン	トン	トン	トン		%	
取りこわし建物	件						

地図、航空写真、踏査等から検討する。

利用可能量等は、現時点で算出可能なものとする。

建設副産物の搬出計画について、基本的には全量を再利用することを原則として計画する。

## 1. 設計概要

発注機関名	
工事名	
工事場所	
工事概要等	
工期（予定）	

## 2. 建設資材利用計画

建設資材	利用量	現場内 利用可能量	再生材利用 可能量	新材利用 可能量	再生資源利用率 ( + ) / × 100	備考
土 砂	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	%	
砕 石	トン	トン	トン	トン	%	
アスファルト混合物	トン	トン	トン	トン	%	
	トン	トン	トン	トン	%	

最下段には、その他の再生資材を使用する場合に記入する。

## 3. 建設副産物搬出計画

建設副産物の種類	発生量	現場内利用 可能量	他工事への 搬出可能量	再資源化施設 への搬出可能量	最終処分量	現場内利用率 ( / × 100)	備考
建設発生土	第1種建設発生土	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	%	
	第2種建設発生土	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	%	
	第3種建設発生土	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	%	
	第4種建設発生土	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	%	
	泥土（浚渫土）	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	%	
合計	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	%	
コンクリート塊	トン	トン	トン	トン	トン	%	
アスファルト・コンクリート塊	トン	トン	トン	トン	トン	%	
建設発生木材	トン	トン	トン	トン	トン	%	
建設汚泥	トン	トン	トン	トン	トン	%	

建設発生土の区分(既存資料から判断するものとする)

第1種建設発生土...砂、礫及びこれらに準ずるもの。

第2種建設発生土...砂質土、礫質土及びこれらに準ずるもの。

第3種建設発生土...通常の施工性が確保される粘性土及びこれらに準ずるもの。

建設発生木材の中には、伐除根材及び剪定材を含む。

利用・搬出可能量は、現時点で算出可能なものを記載する。

建設副産物の搬出計画について、基本的には全量を再利用することを原則として計画する。

第4種建設発生土...粘性土及びこれらに準ずるもの。(第3種建設発生土を除く)  
泥土(浚渫土) ...浚渫土のうち概ねqc2以下のもの。

1. 工事概要

発注機関名	
工事名	
工事場所	
工事概要等	
工期(予定)	

2. 建設資材利用計画

建設資材	利用量	現場内利用量	再生材利用量	新材利用量	再生資源利用率 (+ ) / × 100	備考
土 砂	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	%	
砕 石	トン	トン	トン	トン	%	
アスファルト混合物	トン	トン	トン	トン	%	
	トン	トン	トン	トン	%	

最下段には、その他の再生資材を使用する場合に記入する。

3. 建設副産物搬出計画

建設副産物の種類	発生量	現場内利用量 (減量化量)	他工事への 搬出量	再資源化施設 への搬出量	ストックヤード への搬出量	現場内利用率 ( / × 100)	有効利用率 ( + + + / × 100)	備考
建設第1種建設発生土	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	%	%	
建設第2種建設発生土	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	%	%	
建設第3種建設発生土	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	%	%	
建設第4種建設発生土	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	%	%	
土 泥土(浚渫土)	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	%	%	
合 計	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	%	%	
コンクリート塊	トン	トン	トン	トン		%	%	
アスファルト・コンクリート塊	トン	トン	トン	トン		%	%	
建設発生木材	トン	トン	トン	トン		%	%	
建設汚泥	トン	トン	トン	トン		%	%	

建設発生土の区分(既存資料から判断するものとする)

第1種建設発生土...砂、礫及びこれらに準ずるもの。

第2種建設発生土...砂質土、礫質土及びこれらに準ずるもの。

第3種建設発生土...通常の施工性が確保される粘性土及びこれらに準ずるもの。

第4種建設発生土...粘性土及びこれらに準ずるもの。(第3種建設発生土を除く)

泥土(浚渫土) ...浚渫土のうち概ねqc2以下のもの。

建設発生木材の中には、伐開除根材及び剪定材を含む。

建設汚泥、建設発生木材の、「現場内利用」の欄には、上段に現場内利用、下段に現場内での減量化量を記入する。

「ストックヤードへの搬出量」には、他工事に再利用されることが予定される場合のみ記入する。

「他工事」には、他機関の公共工事や民間工事も含む。

## リサイクル阻害要因説明書 (積算段階)

### 1. 工事概要

発注機関名	
工事名	
施工場所	
工事概要等	
工期 (予定)	

### 2. 建設資材使用予定 【新材を使用する理由は何か?】

建設資材の種類	土	砂	石	アスファルト混合物	備考
材使用の理由	(購入する新材名・数量を記入)	(購入する新材名・数量を記入)	(購入する新材名・数量を記入)	(購入する新材名・数量を記入)	(その他特記事項を記入)
夜間工事のため再生材の搬入ができない					
道路管理者の指示により再生材の使用ができない					
再生材の供給場所がない					
再生材の規格が仕様に適合しない					
その他(具体的に理由を備考に記入する)					

再生材には現場発生材、工事間利用による発生材を含む  
 土砂については、埋戻し、盛土、築堤、海面埋立等に新材(埋戻し用砂、しゃ断層用砂、畑土等の購入材)を使用する場合に記入する。  
 碎石については、路盤、基礎、裏込等に新材(クラッシュラン、粒度調整碎石等)を使用する場合に記入する。  
 アスファルト混合物については、舗装に新材(アスファルト混合物等)を使用する場合に記入する。

### 3. 建設副産物搬出予定(1) 【発生土の自由処分、コンクリート塊等を処分する理由は何か?】

建設副産物の種類	建設発生土	コンクリート塊	アスファルト塊	備考
最終処分等の理由	(処分の種類・数量を記入)	(最終処分場名称・数量を記入)	(最終処分場名称・数量を記入)	(その他特記事項を記入)
夜間工事のため搬出先が指定できない				
再利用できる現場がない				
再資源化施設がない				
再利用できる規格に適合しない				
有害物質が混入している				
その他(具体的な理由を備考欄に記入する)				

建設発生土の処分について、工事間流用、仮置き場への搬入及び貯留土システムの活用以外の場合に記入する。  
 コンクリート塊及びアスファルト塊については、現場から直接最終処分場へ搬出する場合に記入する。

### 4. 建設副産物搬出予定(2) 【建設汚泥等を最終処分する理由は何か?】

建設副産物の種類	建設泥	建設混合廃棄物	建設発生木材	備考
最終処分等の理由	(最終処分場名称・数量を記入)	(最終処分場名称・数量を記入)	(最終処分場名称・数量を記入)	(その他特記事項を記入)
夜間工事のため搬出先が指定できない				
再利用できる現場がない				
再資源化施設がない				
再利用できる規格に適合しない				
有害物質が混入している				
その他(具体的な理由を備考欄に記入する)				

建設泥土及び建設混合廃棄物については、現場から直接最終処分場へ搬出する場合に記入する。  
 建設発生木材については、現場から直接最終処分場へ搬出する場合及び現場から焼却のみ行う中間処理施設へ搬出する場合に記入する。

# 建設廃棄物処理（計画・実績）書

様式 - 7

平成 年 月 日作成

工事名					発注機関名					
工事場所				請負金額	金	円	受注者名			
工期	平成 年 月 日	～	平成 年 月 日	工種	土木・建築・設備（ ）			廃棄物管理責任者	電話	
工事概要										

建設廃棄物の種類 注	発生量 t	現場内 利用量 t	売却量 t	現場外 搬出量 t	収集・運搬業者	中間処理 注				再生処理（再資源化施設）				最終処分				
						処理方法 注	中間処理量 t	中間処理業者	所在地 注	処理方法 注	再生処理量 t	再生処理業者	所在地 注	利用方法等	処分方法 注	最終処分量 t	最終処分業者	所在地 注

<別表1>

建設廃棄物の種類	備 考
コンクリート塊	コンクリートの破片、コンクリートブロック
アスファルト塊	アスファルトコンクリートの破片 <span style="float: right;">がれき類</span>
建設発生木材	工作物の新築・改築・除去に伴うもの
紙くず	工作物の新築・改築・除去に伴うもの
繊維くず	工作物の新築・改築・除去に伴うもの（畳、ウェス等）
建設泥土	廃棄物処理法で「汚泥」に相当するもの
廃プラスチック類	廃合成樹脂建材・廃発泡スチロール（梱包材等）
金属くず	鉄骨鉄筋くず・廃缶類
ガラス・陶磁器くず	ガラスくず・タイル衛生陶磁器くず
その他産業廃棄物	廃油等
建設混合廃棄物	安定型産業廃棄物（がれき類、廃プラスチック類金属くず等）と管理型産業廃棄物（木くず、紙くず等）の混ざったもの
一般廃棄物	厨芥類
アスベスト	特別管理産業廃棄物

建設混合廃棄物は、種類別に按分が困難な場合のみ使用すること。

<別表2>

建設廃棄物（重量／容積）換算表	
建設廃棄物の種類	換算係数（t / m <sup>3</sup> ）
コンクリート塊	～ 2.35
アスファルト塊	～ 2.35
建設発生木材	0.4～0.7
建設泥土	1.2～1.6
廃プラスチック類	0.1～0.3
金属くず	1.4～2.0
ガラス・陶磁器くず	1.5
建設混合廃棄物	0.31

その他の廃棄物については、換算係数を1.0 t / m<sup>3</sup>で計算する。

<別表4>

草刈りにおける面積当たりの重量換算表	
河 川	1.4 t / 1,000 m <sup>2</sup>
道 路	0.74 t / 1,000 m <sup>2</sup>

<別表3>

処分方法	
中間処理	脱水
	乾燥
	焼却
	破碎
	選別
最終処分	その他
	埋立
その他	

のその他は、具体的に記載すること。

【記載事項注意】

注 建設廃棄物の種類は、別表1から選択

注 処理・処分方法は、別表3から選択

注 所在地は、処理・処分施設のある市区町村名を記載

注 再中間処理委託を行う場合は、再中間委託先を記入例のように2段書きで記入する  
<記入例>

(株) ...請負者が契約した中間処理業者  
(株) ...再中間委託先